

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全体会議にて全職員が認識している。 施設は地域密着を「理念」として掲げ、運営推進会議などでも地域との関係強化を大切に実践している。	開設当初より地域密着型の理念を掲げ、法人の方針も定められている。毎月の全体会議時に必ず理念の話しをし、職員の理解を促している。毎月家族へ送られる「みつえだより」にも理念が掲載されており、家族や外部の方にもわかり易く示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、保育園との交流、地域でのお茶会「さろんえんがわ」などの招待もあり、積極的に取り組んでいる。 又、近所からの季節毎の野菜の差し入れも沢山ありボランティアの参加を含めて、交流も多い。	小中学生の職場体験の受け入れが継続されており、専門学校生の1年間の教育実習の受け入れもされている。ボランティアの受け入れや行事参加も積極的に行われている。回覧板を利用し地域情報とホームよりの情報などを相互に流し、開設よりの5年間で地域との良好な関係が出来上がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	飯綱町は、「認知症地域支援体制構築等推進事業」のモデル市町村になった事から、今でも行政主催の会議や研修会に参加して地域内での高齢者や、認知症への理解や支援を啓蒙している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	都度、検討事項のテーマを決めて、取組状況や経過を報告し、お互いの意見を交換しながら今後活かしている。	入居者、家族、区長、民生委員、関係2町担当課職員、地域包括センター職員等が参加し、2ヶ月毎に開催されている。活動状況や予定等をテーマに活発に話し合っている。「認知症地域支援体制構築等推進事業」のモデル市町村になったことなどもあり、町役場職員の会議等への参加も積極的・協力的に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも出席していただいております。行政主催の会議や研修会にも積極的に参加する中で協力関係を築くよう取り組んでいます。	町のケアマネジャー会議が月に1回開催され、役場職員とも一緒に話し合い、各々の担当している利用者の課題など事例を出し合い解決方法を見出したり、勉強会も行われている。代表者が町や隣り町の町会議員よりの依頼を受け、高齢化社会などの取り組みについて発言・提案したこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議やミーティングを通じて、身体拘束により利用者が受ける身体的、精神的被害や「身体拘束」をしないケアについて全員が学習を重ね、理解している。	職員は「身体拘束をしないケア」の研修を毎年受け正しく理解している。玄関の鍵は夜間のみ施錠されている。今までも身体拘束が行なわれたことは全くない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止関連法」について研修を行なっている。 不適切なケアが自宅や施設内において行なわれない様注意を払い、防止に努めている。		

グループホーム・ケアプラザみつえ・Aユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修により全職員が制度について理解している。 なお、必要と思われる家族に対しては説明を行ない活用についての支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、身元引受人に対しての面前にて、入所に関する重要事項の契約内容を説明し、理解を得ている。退所の場合も、十分な説明と対話の中で理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時には、三者(職員、利用者、家族)にて会話の時間を持ち、意見を聞いている。 又、毎年おこなわれる「家族会」では直接要望をお聞きして全体会議等を通じ運営に反映させている。	「みつえだより」が毎月家族のもとへ送られている。「近況報告」という欄が設けられており、各入居者の担当職員によるコメントが記入されている。近所の方なども招待しての家族会が年2回あり、家族の出席率もほぼ100%で家族同士、家族と職員との会話がなごやかに行われ親密度を高めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や都度行なわれるミーティングなどを通じて、いつでも職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1ヶ月に1回全体会議が開催され、代表者ははじめ管理者・職員が出席し話し合いが行われている。話し合いの場ではお互いの存在を尊重する態度が見られ、相手から学ぶとする姿勢がある。職員よりの要望や提案は細部にわたり出されており、全員で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員と共にケアを行ない、業務を把握している。職員が向上心をもって働けるよう、資格取得に向けた支援や、各自がやりがいを持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の全員研修や、必要に応じた外部研修にも参加している。資格取得の自己啓発にはローテーションに配慮をしたり、補助金を出して支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のネットワークに参加している。又、地域内外の他施設と相互訪問により、サービスの質の向上を図っている。		

グループホーム・ケアプラザみつえ・Aユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接自宅を訪問して、入居者と家族との面談を実施している。その際、心身の状態や悩み、希望を聞く事で理解を深め安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や要望を十分理解し、施設としてどの様な対応が出来るか、事前に関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「何を求め」「何をしてほしいか」について家族ときめの細かい打ち合わせを行ない必要なサービスに繋げるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは「家族」である事を職員は認識している。 一方的に介護するのではなく、お互いに「共生」意識の中で生活を楽しむ関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の問題点や好みなどをお聞きし、家族との絆を大切にしてお互いに相談・協力しながら本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等により、見慣れた場所を訪れたり、散歩により知人に会ったり、馴染みの人や場所を忘れない様に支援している	お正月や家族にとって特別な日に帰宅したり家族と外食するなど関係の継続を図っている。昨年からの受入れが始まった認知症対応型デイサービス利用者と入居者が知人同士であることが判り、自然の形で馴染みの関係が継続されている。友人が数人で入居者のところへ遊びに来ることも開設以来続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の位置など、お互いに楽しく会話が出来る、親交が図れる様に配慮している。 入居者同士が相手を思い、お互いに支え合えるような雰囲気づくりに職員が支援している。		

グループホーム・ケアプラザみつえ・Aユニット

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、訪問するなど、コミュニケーションをとり、関係を保っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に家族へ「生活歴」を調査し、その後は「好みのもの」について聴取している。それに基づき、更に深いコミュニケーションを目指しているが、困難な場合は行動や表情から把握する様にしている。	職員の配置を固定化せず流動的にすることで入居者の対応に変化がみられることもある。入居者のうち数名の方が自分の意思や思いを伝えることが難しい状況であるが、職員は気長に話しかけをするように努めている。そばに座ることや話かけの中で表情や身体の動きから推察し思いや意向を汲み取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションをとる中で、これまでの生活状況を認識し、折に触れ情報を得ながら把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、本人の出来る力、理解する力を確認しつつ、総合的に把握する様に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、担当者を決めて職員全員が意見を出し合い、本人の意向や家族の希望を取り入れ介護計画を作成している。定例会議やミーティングでも常時検討しており現状に即した介護を行なっている。	職員による各入居者への担当制をとっているためケアプラン作成に関連する身体状況などについて注意深く見守っている。開設当初よりケアプラン作成について検討し、目標を多く立てることをやめたりするなど改善・工夫している。全体会議でケアプランを作成したり発表し、職員間で共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、業務日誌・ケアプラン・申し送りノート等に記録している。個別の状況は全職員が共有しており、介護記録をもとに必要なに応じ見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況の変化や、レベルの低下など、個々のケースに応じて柔軟な支援とサービスの多機能化に取り組んでいる。			

グループホーム・ケアプラザみつえ・Aユニット

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防・行政機関・区長・民生委員などの意見交換する機会を設けている。 運営推進会議には、地域包括支援センターの職員も参加しており、情報を得る事により安全で豊かな暮らしを支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関がある事を伝えていく。引続き受診している病院での継続可否かを判断していただき、緊急時の対応等で適切な医療が受けられる様に支援している。	入居前のかかりつけ医を継続している方が多い。ホームの協力医は予防接種や緊急時の対応に際しお願いをしている。協力医による往診も行われている。家族との繋がりを保つ意味からも病院等への付き添いは原則家族にお願いしている。診断の結果を通じ家族とホームとが会話をする一つの機会にもなっている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた適切な受診や看護を受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の了解のもと病院からの情報提供を得ている。又、必要に応じて病院の説明については同席して対応しており、医療機関との関係づくりは綿密に行なっている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に備えて、関係者で話し合い、施設が対応し得る最大のケアについて説明をし、家族やかかりつけ医との連携体制の中で、方針を共有している。	ホームとして看取りを行う方針であるが、医療行為や延命行為などが伴う場合は出来ないことを入居時の契約取り交わしの際に説明している。その時期が近づいた場合には再度家族との話し合いを行っている。職員の日常のミーティングでも話し合いがされている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて、緊急時の手当や初期対応の訓練を行なっている。 又、特別に注意を要する入居者については「対応方法」と「連絡先」を掲示して非常時に備えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づき、年2回の総合避難訓練を実施しており、さらに、2ヶ月に一度夜間等を含む訓練も行なっている。 なお、マニュアルを作成し全員に指導すると共に消防署との間で「協定書」を結んでいる。	契約書にも掲げられている通り年2回の災害・消防訓練が行われている。夜間想定や通信による訓練、救急法の講習会等への参加も積極的に行われている。講習会参加等も加えると実際には年7回の訓練等をホームとして実施していることになる。スプリンクラーの設置もされている。

グループホーム・ケアプラザみつえ・Aユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が誇りやプライバシーを損ねないように配慮する事がケアの基本であると認識している。気配りの行き届いた介護を徹底して行なっている。	入居者の誇りやプライバシーを損ねないように一人ひとりの対応にメリハリをつけている。各居室にトイレがあるので排便時の失敗も居室にて自尊心を傷つけず処置できる。入居者への声がけも尊敬の念を込めて苗字に「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何を求め、希望しているかの把握に努めている。意思表示が難しい利用者については、表情や素振りから判断し、気持ちを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にとって安心して楽しく過ごしていただくために何が必要であるかを考慮し、利用者を主体としたペースで、希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人および家族の意向を大切に、その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るよう、個性を大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談しながら好みのものを取り入れている。 又、調理・盛り付け・片付けも職員と利用者が一緒に行ない、同じテーブルを囲み楽しい食事になるように心掛けている。	職員の作った料理を全員で揃っていただいている。「頂きます」の入居者の掛け声で全員の顔を見合うようにして会話をしたり、料理の感想を言いながら食べている。焔で取れた野菜や地域の方よりの差し入れの野菜が食卓に上る。後片付けなど入居者も出来る範囲で手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表により栄養のバランスのチェックを行ない摂取量は日々記録している。 職員が共に食事をする事で各自の食事状況(水分を含む)を把握するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自の能力に応じたケアを毎食後支援している。 又就寝前には義歯の洗浄を行ない清潔保持に努めている。		

グループホーム・ケアプラザみつえ・Aユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握する中で、自尊心に配慮し、適宜声かけを行ない誘導している。 トイレでの排泄を大切にしながら、身体機能に応じた自立にむけた支援を行なっている。	自立の方でも安心のためリハビリパンツを着用している方もいる。時間を見ながら声かけをしトイレに誘導している。排泄チェック表をつけ検討しながら看護師と相談し、薬を服用するなどその時々で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず、自然排便を促すように、食事内容を工夫している(植物繊維・乳製品等)。又、毎日の運動(歩行運動・リハビリ体操)により体力維持や便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて入浴が楽しめる様、個々に対応している。又、ショウブ湯・ハーブ湯・バラ風呂など季節感を味わっていただく様に工夫をし支援をしている。	今後の入居者の重度化を考え、開設当初からの浴槽の改良を行った。車椅子になっても職員が両脇から抱えることにより浴槽に入れるように工夫された造りになった。平均1日おきの入浴になっているが希望すれば毎日でも入浴可能である。医師よりの指示などにより見極め対処している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活習慣と情報提供の内容を参考に、体調や状況に応じ、起床や就寝の生活パターンを考慮した支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの情報や看護師よりの指導により職員は効能・副作用・用法等を理解している。 症状の変化については、担当医・看護師・家族・職員の連携により即時対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや草取り、畑仕事など利用者の経験と知恵を発揮する場を設けている。 日常の会話の中から各自が希望する行事や外出の機会をつくり気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや近所の散歩など、個々の自立能力に応じた支援を行なっている。 又、庭などの戸外で気持ちよく過ごす時間を多くとり共に親交が図れる様に配慮している。	初冬の暖かい日でも日頃の散歩コースになっている近くのお宮まで出かけている。 ホーム内の庭や広い駐車場で体を動かし気分転換を図ることもある。年間の外出計画が立てられており、目的地でお弁当を広げ楽しんでいる。	

グループホーム・ケアプラザみつえ・Aユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では個人的にお金を持つ事はしていない。 (必要な時は職員や家族と共に買い物に出たりする事で相互に協力し合って支援している。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があればいつでも応じている。(不穏時など家族との会話により落ち着く事もあり前向きに利用しているが、手紙は入居者のレベルにより対応している。)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感あふれる明るい雰囲気の中で調理の音や癒しの音楽など五感や季節感を取り入れ「我が家」として心穏やかに過ごせるように工夫をしている。	ホームの玄関脇やリビングには季節の花や盆栽が飾られている。入居者が自由に使えるスペースが多く設けられている。壁には行事での入居者の喜びの表情が映し出された写真や作品が飾られている。南向きのリビングには太陽の光が差し込み、近くの里山のその時々表情を見ることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や廊下にソファや椅子を置き、独りになれたり、気の合った仲の良い利用者同士が、共に寛げるスペースを設け、居心地の良い空間をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品の中で、居室からは見慣れた山や畑が見え、落ち着いた環境の中で、居心地よく過ごせるように工夫している。	整理整頓された各居室には思い思いの品物が持ち込まれている。家族の写真、とりわけ孫やひ孫の写真が多く飾られ温かい雰囲気作りがされている。パネルヒーターによる暖房のため、やけどや乾燥の心配が少ない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	出来る限り活かせる事を見つけ、自立した生活が送れる様支援すると共に、利用者の状態に合わせ快適に暮らせる様安全に配慮し、対応に努めている。		